

お茶の間

2017
春夏号



■編集/発行
高橋正子事務所

〒491-0044
一宮市大宮 1-3-6
グランドメゾン大宮 1F
TEL(0586)71-2900
FAX(0586)71-5380

料金後納
郵便

ゆうメール

高橋正子県政報告

PRESS

愛知県議会議員
高橋正子
(一宮市選出)



ご家族の皆さままでご覧ください。

身近で分かりやすい会報をお届けします。

平成29年度愛知県政がスタート！

- ♣ 常任委員会/警察委員会に配属！
- ♣ 一部事務組合議会/名古屋競輪組合議会議長に就任！
- ♣ 新年度当初予算は、一般会計2兆5,200億円！（詳しくは中面にて）

平成29年2月県議会本会議「議案質疑」



日本の子どもの貧困率は16.3%、6人に1人が困窮家庭で暮らしていることになる。子どもの貧困対策は喫緊の課題であるが、地域ごと（各都道府県単位）の子どもの貧困率は公表されていない。そこで、子どもの貧困対策を実効性ある取組みにするためには、まずは子どもの生活実態や子育て支援ニーズ、経済的要因が及ぼす影響などを調査・分析し、子どもの貧困の実態を知る必要がある！と、昨年12月に「子どもの相対的貧困率」の算出を目標にした「愛知こども調査」を実施。名古屋市を含む県内全域の小中学生家庭の生活実態を調査するために、小学1年生と5年生、中学2年生の子ども及び保護者33,635人（これは全対象者の1割に相当）を無作為に抽出。本県にどのくらい困窮世帯の子どもたちがいるのか把握し、3月末に公表される調査結果を基に、平成29年度の子どもの貧困対策につなげていく。

子どもの貧困調査と無料学習支援事業について

Q:「愛知こども調査」の結果をどういふか？

A: 愛知こども調査のアンケート回収率は70.6%で、「現在の暮らし向きで苦しい・やや苦しい」と回答した割合は全体の3割を占め、貧困の状況が読み取れる年収200万円未満の割合は約3~5%だった。3月末に公表される「子どもの相対的貧困率」は、複数の質問を組み合わせたクロス集計で算出し、貧困の連鎖の状況や生活困窮世帯における子どもの状況、特有の課題、必要な支援等が浮かび上がってくるものと考えている。

Q:「子どもの学習支援事業」の今後の予定と課題は？

A: 公募で企画提案を重視して委託先を選定してできるだけ早く事業を始めたい。学習支援の場所は公民館など公共的な施設を予定し、子どもとその保護者に対しても日常生活の悩みや相談にも応じていける体制をとっていきたい。最終的には、世帯全体の抱える問題にも寄り添えるように生活困窮者自立支援相談窓口とも連携して「貧困の連鎖」を食い止めていく。

【本県の子どもの貧困の現状】

- 経済的に苦しい家庭で、学校給食を援助してもらっている児童生徒は年間6万人！
- 生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率は84.9%（全国92.8%）で、中学校卒業後に就職する割合は5.3%（全国1.7%）と、高校進学よりも中学校卒業で就職を選ぶ特性にある。



愛知県へ2つ要望をしました！

- 学習支援事業では、栄養バランスのとれた食事が提供される「子ども食堂」の併設を！
- 子どもの貧困問題への対応は全庁あげて一元的に「子どもの貧困対策プロジェクトチーム」を立ち上げるべきだ！

3月末に「愛知こども調査」の結果が公表！

愛知県の子どもの貧困率は5.9%
全国平均16.3%を下回る結果に！

調査をした結果、世帯所得年122万円未満で暮らす子どもの割合を示す「子どもの貧困率」は5.9%！ひとり親家庭を中心に、県全体で約7万人の子どもが困窮世帯で暮らしていることで、平成29年度以降の貧困対策施策で県の貧困の特性や課題を分析し、実効性ある取組みを進める。

私の質問のその後！

4月25日付
新聞に掲載

子ども貧困調査の結果を受け、「子どもの貧困対策推進プロジェクトチーム(PT)」を設置！第1回を5月1日に開催。堀井奈津子副知事をリーダーに、県健康福祉部や産業労働部、県教育委員会など横断的に各部局一元化で組織構成。



平成29年度、一般会計当初予算は2兆5,200億円！

平成29年度のおもな愛知県予算を紹介

中京大都市圏

●リニア開業を見据え、名古屋駅のスーパーターミナル化とリニアインパクトの広域化に向けた取組を推進。<<予算額/41,285千円>>

「リニアを見据えた鉄道ネットワークの充実・強化に関する方策案」に基づき、中部国際空港や東海道新幹線豊橋駅のアクセス向上に向けた調査の推進。



●「あいち公共交通ビジョン」に基づき、地域公共交通の活性化を推進。<<予算額/9,028千円>>

平成28年度に策定した「あいち公共交通ビジョン」に基づき、鉄軌道、バス等が相互に連携し、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの構築を目指す。

●中部国際空港の二本目滑走路の実現、国際交流の拡大に向けた取組を推進。<<予算額/29,626千円>>

中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現、国際交流の拡大に向け、新規路線開設など、一層の需要拡大に向けた取組を推進。

農林水産業の振興

●県内外へのPRにより、県産農林水産物のイメージアップと主要品目のブランド力強化を進め、需要拡大を図る。<<予算額/25,510千円>>

「いいともあいち運動」を活用して、「名古屋コーチン」「花き」「抹茶」「あさり・うなぎ」「小麦」のブランド力強化と新たな販路開拓の促進。



●名古屋コーチンの生産体制強化を目指し、畜産総合センター種鶏場を移転整備。<<予算額/136,668千円>>

名古屋コーチン発祥の地といわれる小牧市大草地内へ移転整備し、市場規模200万羽体制への生産拡大を目指す。(平成33年度供用開始予定)



■名古屋コーチンは「地鶏の王様」と評され、平成26年度の県内産出額は約15億円で全国1位！

●第70回全国植樹祭の開催準備<<予算額/142,052千円>>

平成31年春期に愛知県森林公園で開催するために、お野立所設計、天皇皇后両陛下による「お手植え・お手播き」の式典会場整備を行う。



平成29年度当初予算は、日本一元気な「愛知」が東京一極集中を打破し、日本の未来をリードしていくための取組をさらに発展！産業力、経済力、文化力、人財力、地域力に加え、「愛知の未来」を見すえ、子ども達に未来を手渡すための施策を反映した予算編成に！



予算の規模(前年比)

総額…3兆4,847億円(1.2%増)
一般会計…2兆5,210億円(0.2%増)
特別会計…7,662億円(1.9%増)
企業会計…1,975億円(18.6%増)

【歳入】法人二税の大幅減 県税は803億円の減収！
【歳出】医療・介護などの社会保障関係費が増加！

産業首都あいち

●世界的なロボット競技大会や青少年の発明コンテストを開催し、日本一のモノづくり県である愛知を発信。<<予算額/105,419千円>>

自律移動ロボットの国際的な競技大会「ロボカップ2017世界大会」及び「世界青少年発明工夫展2017」の開催。

■ロボカップ2017世界大会

<平成29年7月25日(火)～31日(月)>

ポートメッセなごやにて、サッカー、災害現場を想定した競技などが内容。



●あいち航空ミュージアムをオープン<<予算額/4,801,948千円>>

航空機産業と産業観光の強化を目的に平成29年11月30日、県営名古屋空港にオープン。

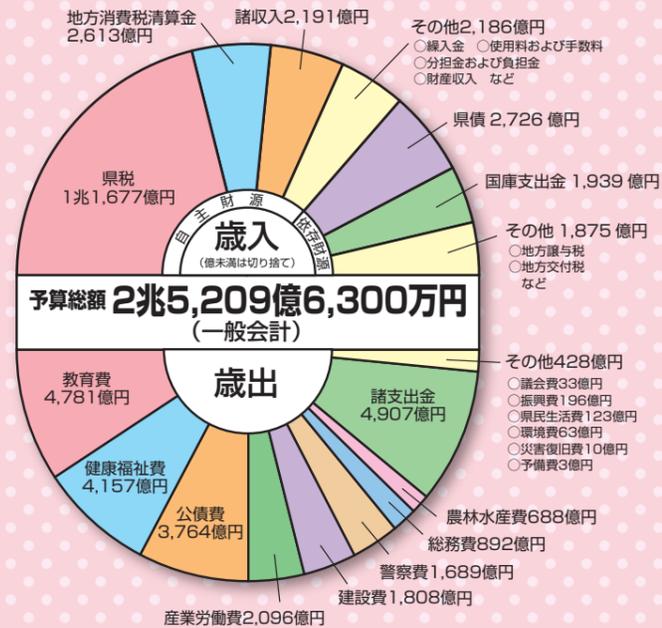


●レベル4の遠隔型自動走行システム等による実証実験の実施！<<予算額/18,229千円>>

技術の高度化を進めた遠隔型の自動走行車両による実証実験と、一般県民を対象とした無人タクシーを疑似体験するモニター調査の実施。



昨夏の一宮市内での実証実験の様子。



医療・福祉

●認知症の人やその家族が安心して暮らせる地域づくりを推進<<予算額/112,198千円>>

あいち健康の森及びその周辺地域を対象として、認知症に理解の深いまちづくりの先進モデル「オレンジタウン構想」の調査検討。

●「愛知子ども調査」「ひとり親家庭等実態調査」の結果を分析し、施策検討に取り組みとともに「子どもの学習支援事業」を実施。<<予算額/28,612千円>>

子ども調査の詳細な分析を行い、実効性ある施策について検討。生活困窮世帯等の子どもを対象に、無料の学習支援や子どもの居場所の提供を行う。



●国民健康保険の広域化の推進<<予算額/10,522,301千円>>

平成30年度から実施される新たな国民健康保険制度において、国民健康保険運営方針の策定など新制度の安定的な運営を図るための準備を着実に推進。

人財力の強化

●STEM教育の推進<<予算額/16,178千円>>

県立高等学校においてSTEM(科学・技術・工学・数学)に重点をおいた教育を推進し、理数工学系人材を育成。



●働き方改革に取り組む企業を支援<<予算額/19,512千円>>

長時間労働の是正など、働き方の見直しを促進するため、専門家を「働き方改革アドバイザー」として企業に派遣。

観光あいちの推進

●「愛知県大型観光キャンペーン」を実施<<予算額/102,302千円>>

JRグループ等と連携して実施する全国規模の観光キャンペーンを展開し、本県への観光客の大幅増加を図る。

●愛知県国際展示場の整備と開業に向けた準備の推進<<予算額/4,975,162千円>>

空港島に整備する「愛知県国際展示場」の建築工事に着手。また、運営事業者を選定し、平成31年秋の開業にむけ準備を進める。



文化・スポーツ・魅力発信

●「第20回アジア競技大会」の開催準備<<予算額/81,848千円>>

45の国と地域が参加して、2026年に愛知・名古屋で開催される「第20回アジア競技大会」に向け、選手村に関する調査や各競技団体、市町村との調整。

●スポーツ大会を活かした地域振興の推進<<予算額/670,855千円>>

「ISUグランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会2017」、「ラグビーワールドカップ2019」の開催や「FIFAフットサルワールドカップ2020」の招致。



安全・安心

●平成28年熊本地震における課題に対応した地震等防災対策の強化<<予算額/14,605千円>>

被災自治体支援活動訓練や応急仮設住宅建設訓練を実施するとともに、避難所運営マニュアルの見直し等を行い、地震防災対策を強化。



●交通事故を減らし、安全で快適な交通社会を目指す<<予算額/7,176,588千円>>

信号機、道路標識、標示等の交通安全施設を整備。■信号機新設34基、信号機改良1,161基、信号灯器のLED化5,229灯、道路標識の新設・更新11,949本、道路標示の新設・更新3,338km



「環境首都あいち」の確立

●あいち地球温暖化防止戦略2020を推進<<予算額/171,097千円>>

県有施設におけるLED照明の整備、住宅用地球温暖化対策設備導入(住宅用太陽光発電施設等)を促進。

愛知県議会 農林水産委員会

農業総合試験場の研究成果とその普及について

平成28年12月議会で質問しました。



毎年12月に農業総合試験場の1年間の10大成果が発表されるが、2016年の成果は？また、10大成果の順位はどのように決定しているのか？

A：農業総合試験場の10大成果は、学識経験者、マスコミ関係者、消費者団体関係者、民間企業の研究者の4名に農業総合試験場長を加えた選定委員が今後の普及が期待される新品種や実用性、新規性が高い新技術、社会的関心の高さを基準に順位を決定。

【愛知県農業総合試験場2016年10大成果】

第1位 餅つき2日後でもまだ柔らかい米デンプンの開発



これまでに農業総合試験場で研究開発された品種はどれくらいあるのか。また、その中でとりわけ後世に語り継がれるようなものは？

A：農業総合試験場は99の品種を登録出願し、全国で4番目に多い。中でも昭和45年から連続9年間、作付面積が全国1位となった水稲品種の「日本晴（にっぽんばれ）」や「名古屋コーチン」の開発などは全国一の知名度を誇っている。



農業総合試験場の研究で、愛知のブランド力の向上を目指して研究開発された成果物と、その後の現状は？

A：平成23年に品種登録した小麦「きぬあかり」は、県内の小麦作付面積の84パーセントを占め、うどんやきしめんにした時に適度なコシとなめらかさがある。また、平成26年に品種登録した本県初めてのパン・中華麺用小麦「ゆめあかり」も好評。

きぬあかりは、味噌煮込みうどんの種に最適！



5年前に、発育が早く子供をたくさん産む新たな種豚アイリスの開発に成功したが、現況と普及成果は？

A：本県で開発した系統豚「アイリス」は、ランドレース種のアイリスL3、大ヨークシャー種のアイリスW3、デュロック種のアイリスナガラをそれぞれ飼育し、県内の養豚農家に320頭譲渡している。愛とんやみかわポークなどの銘柄豚に多く利用されており、県内豚肉のブランド化にも貢献。



平成29年2月議会で質問しました。



愛知県は愛知のあさりの漁獲量は年間約1万トンで全国シェアの約54%を占めて日本一だが、あさりを使った「なごやめし」がないことから、「あさりのなごやめし」を考案するために、平成29年3月2日「あさりグルメ選手権」を開催。応募状況と結果は？また、次年度からの計画は？

いいともあいちブランド強化事業



愛知県では、首都圏において愛知県産農林水産物のブランド力の強化を図るため、「平成29年度いいともあいちブランド強化事業」を実施している。愛知県の代表的な水産物であるあさりの漁獲量は、平成26年農林水産統計より全国1位（10,563t、全国シェア54.3%）、養殖うなぎの生産量は、全国2位（4,918t、全国シェア27.9%）だが、消費者の認知度は高くない。そこで、愛知県では、あさりとうなぎのブランド力強化に力を注ぐ。

A：出品者は、県内の個人又は団体から12件。出品料理は、「あさりの豆みそ焼き」、「ガマゴリうどん」、「渥美あさりの押し寿司と海苔巻き」などの地域の名物料理に加え、「クリーミーコロケ」、「あさりまぶし釜飯」などの新たな創作料理も。結果は、団体バスツアー客等に提供する「地元食材を使った料理」を念頭に考案した和食麺処「サガミ」の「たっぷりあさりまぶし釜飯」が最優秀知事賞を受賞。

次年度は、これまでの取組みを発展させ、しらす、のり、しゃもなど全国に誇る県産水産物を集め、試食や展示等を通じて消費者にPRする「あいち水産フェア」を開催することで、県産水産物全体のブランド力強化を図っていく。

「たっぷりあさりまぶし釜飯」

（和食麺処サガミ）



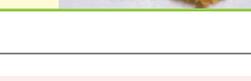
「あさりの旨味たっぷりクリーミーコロケ」

（名古屋栄養専門学校）



「ガマゴリうどん」

（蒲郡シティセールスプロジェクト ガマゴリ・5）



プロフィール

- 昭和57年3月 愛知学院大学法学部法律学科卒業
- 昭和58年4月 (株)一宮タイムス社編集部に入社
- 昭和63年8月 一宮タウン情報誌「EGG」を創刊、編集長
- 平成12年2月 (有)お茶の間通信社を設立、代表取締役
- 平成15年4月～ 愛知県議会議員に初当選、以後連続当選し現在4期目

愛知県議会議員おもな役職・職務実績

- 平成19年5月～20年5月 民主党愛知県議員団政務調査会長
- 平成21年5月～22年5月 愛知県議会健康福祉委員会委員長
- 平成24年5月～25年5月 民主党愛知県議員団幹事長
- 平成25年5月～26年5月 名古屋港管理組合議会監査委員
- 平成26年5月～27年5月 民主党愛知県議員団副団長
- 平成27年5月～28年5月 産業振興・環境対策特別委員会委員長
- 平成29年5月～30年5月 名古屋競輪組合議会議長

事務所のご案内



〒491-0044
 一宮市大宮1-3-6
 グランドメゾン大宮1F
 TEL(0586)71-2900
 FAX(0586)71-5380



http://www.masakonet.info
 E-mail 138@masakonet.info